



新刊  
紹介

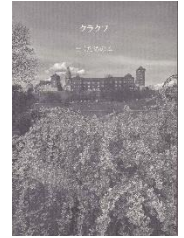
『クラクフ：書くための本』日本語版

田村和子、エルジビェタ・タバコフスカほか(文)

リディア・ロズムス(写真)

出版社 アウステリア、クラクフ 2024.2

Kraków: Książka do pisania,  
wersja japońska.  
Elżbieta Tabakowska,  
Kazuko Tamura, Lidia Rozmus,  
Austeria, Kraków 2024.2



ポーランド訪問が実現したのは2023年の9月でした。仕事でオーストリアのウィーンに行くことになり、ついでに3日間だけワルシャワにも行けることになりました。しかし、3日間のうち1日をすべて自由に使えるのは2日目だけで、この日は遠出をしてクラクフまで行ってみようということになりました。高速列車に乗って早朝に到着し、午前中は旧市街を散策、午後からアウシュビッツ強制収容所を見学して夕方にワルシャワに戻るプランです。

クラクフでは雨に降られたのですが、それがかえって良かったのだと思います。まず、クラクフ中央駅から中央広場に向かって歩き、ヤギェウォ大学コレギウム・マイウスに到着したとき、ぽつぽつと降り出しました。雨のせいか観光客はほとんどいなくて、回廊には私たち家族だけしかいない時間がありました。そんなとき、息子は嬉しくなって階段を上ったり下ったりを繰り返していたのですが、「パパ、あれ何？」と聞いてきました。彼が指さす方向を見ると、屋根にはブロンズでできた龍の排水溝があって、龍の口から雨水が滴り落ちていました。ラオスでナーガという蛇の排水溝を見かけたことがあったので、それとずいぶん似ているなと思いました。次に、小雨の中ヤギェウォ大学キャンパスに移動して、コペルニクス像の前で3人揃って写真をパチリ。赤煉瓦の校舎は雨の中でも十分に美しかったです。だから、花が満開になる時期はもちろん、雪が降る中で眺めるのもきっと素晴らしいのでしょう。その後はグロツカ通りに進みました。途中でリング状のパンが売っている屋台がとても気になったのですが、いよいよ本格的に降り始めたので、パンを諦めて私たちは急ぎ足でヴァヴェル城に向かいました。到着した途端に大雨。息子を抱っこして、大聖堂の中を歩いて旧王宮跡の中庭まで駆けて行きました。そう

すると、「ザー」とスゴイ音が聞こえてきます。雨音かと思ったら、屋根の角にある龍の排水溝から雨水が噴水のように飛び出していました。このタイミングで雷も鳴り始めます。「おー!!!」雷鳴の中、龍の口から炎ではなく水が飛び出す様子を見て、息子は興奮していました。最初は天気が良くないことを残念に思いましたが、このとき、私は雨の中の観光も楽しいと思いました。そして、ヴァヴェル城を巡った後は時間が押していたので、私たち家族はすぐにアウシュビッツ強制収容所に向かいました。

ポーランド旅行から1年経って、2024年に『クラクフ 書くための本』を読みました。このリング状のパンはオブヴァジャネックという名前であることを知り、しかも、クラクフ市の中心部でしか買えないことも知りました。また、時間がなくて行けなかった『オスカー・シンドラーの博物館』や『クラクフ・ゲッターの薬局』は必見の価値があることも分かりました。この本から大いに刺激を受けました。クラクフでやり残したことがたくさんあるのでまた行きたいと思うようになり、だから、2025年9月にポーランドに行くことを決めました！2回目のクラクフ訪問の際は『クラクフ 書くための本』でしっかりと予習して、この本を持って行って、掲載されている箇所をすべて回りたいと思います。(齊藤賢人、会員)

追悼 佐々木保子さん 小林 暁子

あまりに急なことでした。

40数年前、道立近代美術館でのボランティアに応募して下さったときが保子さんとの初対面でした。その後ポ文協設立の時お誘いしたところ、ポーランドには深い関心があると言って参加して下さったのです。

ご実家が我が家の近くだったこともあり、ことあるごとに親しくお付き合いさせていただきました。ポーランド旅行、池田町への修学旅行、午後のポエジア、その他各種の例会の企画など、運営委員として熱心に活動していただきました。グループ活動では仲間を大切に、なくてはならな



い存在でした。

又、会話の端々にご主人の正さんのお名前が飛び出し、4人のお子さん、お孫さんの話題になると、ほんとにいい子たちに恵まれたと話し、思いやりと愛情にあふれる家族だなとほほえましく思ったものです。

私に電話をくれる時はいつも「あきこさん」と語尾を伸ばして呼び掛けてくれるのですが、先日「もう少し暖かくなったらランチしましょう」と約束していたのです。でも、雪が解けないうちに逝ってしまわれました。

明るく気さくで誰からも好かれていた保子さん。さようなら。また逢う日まで。(こばやし・あきこ、会員)

=写真= 第38回(2024)定例総会 議長を務めた佐々木さん